

春合宿“松”コース

2年 宇佐見健太郎

とき：1980年の休み(春)のいつか。

ところ：紀伊半島のどこか。

出場者：高橋さん，斉藤さん，村瀬君，
石田君，私(うさみくん)

以上のような状況で，昭和55年春合宿
“松コース”のお話をしてみたいと思
います。まず松という名称から説明いた
しましょう。そう，言うまでもなく，
松，竹，梅，の‘松’なのであります。そう，
一番リッチな班なのであります。すく
なくともそういう予定であつたのであ
ります。だから，東京から西へ向かう時
も他の班のように，大垣行日本最長ドン
行，などを使わずに，新幹線に近鉄特急，
なのであります。と言，ても私と石田
君以外は現地集合ではあつたけれど
第一日目，松班は伊勢志摩コースに集
合ということになつておりました。こ
こでフリーランをやつていた高橋さん
斉藤さん，ギフからやつて来る村瀬君，
そして東京発松コースの石田君，宇佐
見君が11?しよになつたのでありま


て[華]なをませ歌氏おせれな。は、に高のてと存のね
 た[時]。」らまシ諸はまけきす。人し器をそのるうてま
 ま食イ歌かりモ一飯り。大でのに容度くそなえはな
 函のシのめあシバ御あん局の他口の密ブうにり看う
 計スマ謝初はモルとはせ結うのに積は基ハねなみよ
 の一ゾ感ヤくがへハでまでまえん体にと重くさる
 泊工オにり多人のなうりのしめか同る理恵段なうけ
 連のが飯そう教これまあいてじさ。れ原知三はのか
 にこう御。そのこ歌たはな。はまた入うのの分子を。形
 又、ハ「すはち、でのてなまのしむハ造し半ハ惑たシ
 一がとにまホうと声と大臍にんうま質と生めまよ迷しラ
 工すハ前リアのすな」ははとさりり物ハそ縮か。にで一
 のでこのあう人まきす達にこ藤とおのよこ圧おた人んり
 このし事で歌ナリ大で私腹う存して量ばれ。でし他せフ
 はたも食のに何お「け。空歌でめし多れこうハでなまは
 達ハあとうめ。て、ずかもでこ縮行りす。よハハうし目
 私てかん歌じんっはあんど声こ圧実よくでし一勢よは翌

しけのボケの描で合きらり
もだ地がだらかの集とた々
お所宅屋れれ真たのくい時
てヶ住小そそ写し屋行書を
っ一興り。やり小どで話
いが新よすが、絵たアんまら。感マ觀せのだなつ疲るでさ
とす。うますのっここかすのシなッあんくニがべの目
れでた言いで裸あり。これま達せ名せ。る軽な綱かたを
このしとてののてトす。こし私イ有せたれも大な浮い浦を
た。たま、っな人っスます、にと。のッしらし巨大い着見
しかあなと景女りすあきのこ見よはてりでペえもを浦り
まながさンのにたででべたるニし達しお目にびに景見降
りは域小ッ通壁っうのすきせま私ごての然え世尤ニを
回所地にボ善のあそなにてさ話した目しこ自にになて車
てりなうらら物て。地夜れアてばしをば、で上間んし車
見了妙よりな建いす困は疲一さと発浦と日ちののええ自

とま初、し、す。にたの
 子リ最、の、での出たの
 がかて、分の用をにした。
 曲曲見だ、た、光、達、ま、ま、
 ま、ま、ま、ま、ま、ま、ま、
 角角浦う、あ、は、う、私、は、ま、
 のの見「て、か、れ、と、き、
 あ、え、二、て、し、浦、こ、り、
 。、て、か、し、象、見、こ、り、
 た、し、達、え、想、二、に、の、か、
 し、え、私、す、か、の、さ、に、が、
 ま、だ、。、で、達、の、さ、な、が、
 き、だ、。、声、私、の、小、は、す、
 行、ん、だ、。、ア、た、は、は、の、
 て、る、。、げ、に、は、100、の、
 二、え、た、。、上、こ、に、や、ま、
 歩、見、し、に、そ、こ、に、あ、ま、

ん覚えておりませんでした。ワーブ
私達が奈良県の十津川という山奥を走
っている時、石田君はある店でパンを
買ったのでした。そのパンを石田君は、
亦なかか減ったら食べようと思ったの
です。さて、山の中をしばらく走ると腹
がへって来ました。そこで石田君はさき
ほど買ったクリームパンを食べよう
としました。しかし食べようとした瞬間
へんなにおいかしたのです。このパンは
少しおかしいのではなかいのか。石田君は
こう思いましたか、松コースを選んだ
石田君のことですから迷わずパンを
食べてしまいました。さて、その夜、
川津Y.H.に着いた石田君は胃の中で
反乱が起きているのに少し気がつき
ました。これはおかしい、すし横に
なっているよう、と思った瞬間、胃の中の
反乱軍は食道をかり上り、口から外
界へと攻めてきたのでした。その夜、
石田君は胃の中がかるぽの状態でも
ベットの中で仮死してしまいました。ワーブ
さて私達はなんとか生き返った石田
君とともに、山奥をぬけ出して五条の
町へと出てきたのです。そこで村瀬



君とうさみ君は体の調子のおかしいのに気づ
いたのです。どうやら石田君のクリームリン
症候群がこの二人にも移ったようです。その夜
病人三人をかかえた松班は、今合宿初の
民宿ということになりました。その民宿には
関西弁を使う(あたりまえかな?) へんなおば
ちゃんか一人だけあり、私達は大広間のお
うな広大な部屋へ通されたのでした。夕食
の時間になり、私達はここしばらく見た
ことのないごちそうの前へとすわったのでした。
ところが、石田君と村瀬君とうさみ君はさ
し食欲がありません。その三人を見ていた高
橋さんもあまり食欲がないようです。一人、
斎藤さんだけが元気よく他の人のおかずを
食べてくれました。その夜うさみ君は完全に
石田君の病気にのり移され、ふとんとトイレ
の間を往復したのでした。村瀬君は、意識
不明の状態でふとんの中にもぐってしま
した。その民宿で連泊した松班は、なんとか
元気を取りもどし、あとは友にこども
事件がなく、目的地、奈良の都へ到着
したのでした。しかし合宿中に病気になる



ることほども心細りこととはありません。き
 みなさん、そのエ地ののネヤ食物にしまし
 をつけ、病に、ならハヨウにしまし
 よう。今まで書いと下には、一部フイクニョンも
 バス形式のこて中、可、能、性、も、あ、り、し、な、に、し、る
 その代も本文のこ、と、を、そ、の、場、合、の、と、一、切、開、係、が
 でおまれの、か、ら、は、実、在、の、も、の、と、一、切、開、係、が
 含まれの、か、ら、は、実、在、の、も、の、と、一、切、開、係、が
 春合の、か、ら、は、実、在、の、も、の、と、一、切、開、係、が
 する体、か、ら、は、実、在、の、も、の、と、一、切、開、係、が
 ありません。

